

コーポレートメンバー

# 太陽工業株式会社

土木エンジニアリングカンパニー

技術室 枝尾孝之

弊社は昭和 22 年に設立以来、東京ドームや西武ドームの屋根材に代表される膜面構造物の設計と加工、施工を主力事業としている会社です。「膜」という材料を用いてこれまでに多彩な構造物を手掛け、健やかな人間生活を育むことをお手伝いしてまいりました。平成 5 年にはハードだけの「膜」を超えた、新しい価値の創造をめざして「膜」から「MakMax」への転換をはかりフレキシブルな膜材を用いて快適な空間、景観をデザインプロデュースし演出してまいりました。

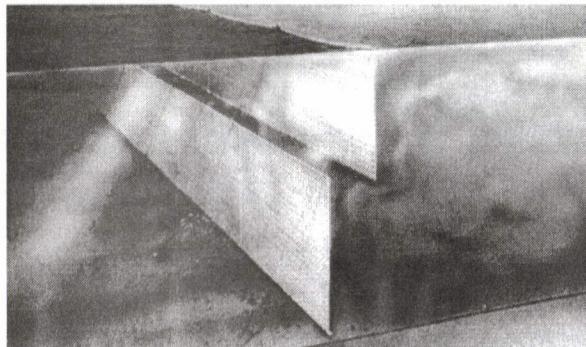
土木エンジニアリングカンパニーは快適空間の創造を人間にとっての空間だけにとどめることなく、自然環境、地球環境にとっての快適空間とは何か?を追求し、創造することを目的として活動しております。IGS では 1991 年に CORPORATE MEMBER となり、ジオテキスタイル、ジオメンブレンと幅広い分野でお手伝いさせていただいております。

本稿では弊社が取り扱っております土木関連資材のプロフィールを紹介させていただきます。

「MakMax」ロゴ

## 「汚濁拡散防止膜 ; シルトプロテクター」

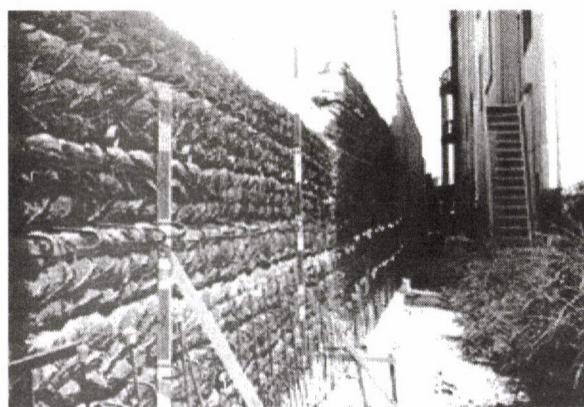
港湾、河川工事により拡散するヘドロやシルト、そして工場からの汚濁水。これらは、海洋など汚染してしまいます。「シルトプロテクター」は、そんな汚染を防止するために開発された土木資材で、さまざまな海洋、河川の汚濁防止にお役立ていただいております。



シルトプロテクター

## 「RRR 工法用面状補強材 ; J グリッド」

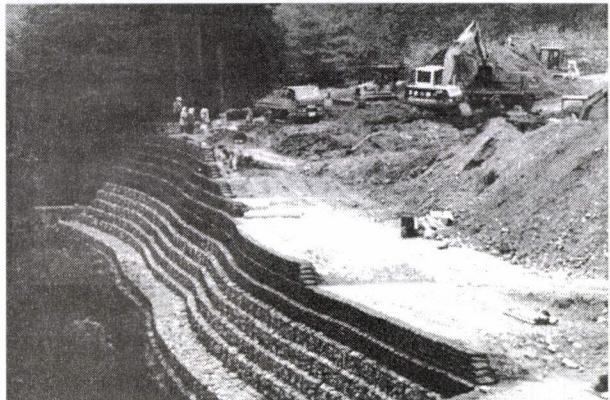
RRR 工法は面状補強材と剛壁面を用いて、鉛直に近い盛土のり面を構築する工法です。土中に帯状鋼板や面状補強材を敷設して盛土を急勾配化することは、従来から行われてきましたが、RRR 工法は曲げ剛性を有する壁面工を併用することによって、これまでにない安定性を確保しました。弊社は面状補強材「J グリッド」の販売を通じて RRR 工法の普及に努めております。



J グリッドを用いた RRR 工法

### 「補強土壁用盛土補強材；スーパーGグリッド」

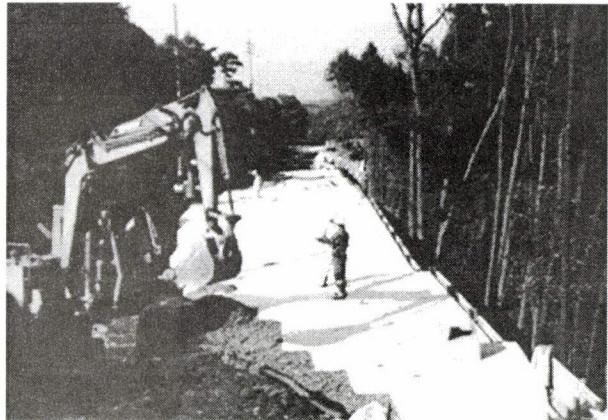
盛土中に盛土補強材「スーパーG グリッド」を敷設し、土との相互作用によって盛土構造物全体の安定性や強度を高めます。おもに植生を目的としたのり面の盛土工法に用いられています。「スーパーG グリッド」は、高強度、低伸度、低クリープ性を確保する目的で開発された高強度の繊維素材「ベクトラン」を使用したジオグリッドです。強度を低下させることなく、軽量化、柔軟化を実現し、現場における施工性を一段と向上させました。



スーパーGグリッドを用いた補強土工法

### 「E P S を用いた軽量盛土工法」

大型の発泡スチロールブロック(EPS)を盛土材料として積み重ねていく工法です。EPS の持つ超軽量性や耐圧縮性、耐水性、積み重ねた場合の自立性などの特徴を有効に利用した新しい工法といえます。軟弱な地盤や急傾斜地の盛土、構造物の裏込め、直立壁、盛土の拡幅など、荷重軽減や土圧軽減が必要とされる施工に適しています。施工に当たっては、大型建設機械を必要としないほか、地盤処理や仮設工事なども簡略化でき、工期の短縮が図れます。



EPS 工法（道路の拡幅盛土）

### 「廃棄物最終処分場しゃ水工；ガンデルシート」

環境基準の厳しいアメリカでは廃棄物最終処分場の遮水シートの90%以上は、高密度ポリエチレンが使用されています。その市場でGSE社（米国）はガンデルライニングシステムとして、実に60%以上を占めており、高密度ポリエチレンシートの生産から設計、施工まで高い技術力でカバーし世界で最も実績のあるライニングシステムとしています。弊社は、ガンデルライニングシステムを導入し日本国内で数多くの実績をつけてまいりました。



廃棄物最終処分場しゃ水工；ガンデルシート

太陽工業は国土保全、防災、環境保全に役立つジオシンセティックス製品群を提供する事で、お客様に高い満足を得ていただくとともに世の中の役に立つ集団でありつけたいと願っています。

今後とも IGS 日本支部の会員の皆様方からのより一層のご指導をお願い申し上げます。